



# ほけんだより 春号



2026年4月  
きりしま保育園

春の日差しが暖かくなり、保育園での新年度が始まりました。ほけんだよりでは季節ごとに、子どもの健康や感染症についての情報を発信していきます。よろしくお願いいたします。新しい生活がはじまりそろそろ1ヶ月。慣れてきたかな…というこの時期、新年度あるあるですが、体調不良の子どもが増えてくる時期でもあります。十分な睡眠と休養をとって、元気に登園できるように見守りましょう。

## 病院受診をするときに伝えること・確認すること

いつからどんな症状があるのか（数値化して具体的に）、時間の経過とともにどう変化しているか、普段の生活への影響など、基本的なことに合わせて下記も確認しておきましょう。

### ① 薬は1日2回の処方に

保育園では基本的に投薬は出来ません。薬は朝・夕の1日2回の処方できないか相談しましょう。

### ② いつから(どうなったら)登園できるか

登園の目安をお医者さんに確認しましょう。病気によっては登園の可否を判断するために、もう一度受診が必要な場合もあります。

### ③ どんな時に再受診が必要か

熱が5日以上続くとき…など、再受診の目安も確認しておくとう安心です。

園で発生している感染症も  
受診時に伝えましょう



「ほいくのしおり」に記載されている感染症にかかった時は、『登園届』または『受診報告書』が必要となります。ご確認ください。

## 園生活に感染症はつきものです！予防接種を受けましょう！！

入園し始めに多いのは、とくに風邪症候群。今まで熱を出さなかった子が、保育園に通い始めた途端に、「熱を繰り返す」、「鼻水が止まらない」、「ずっとせきをしている」という訴えはとても多いです。日ごろの予防対策として、**保育園から帰ってきたら、まずは手洗いをしましょう。**また、園の生活に慣れない最初の時期は疲れがたまりやすいので、体調がすぐれない場合には無理をせずしっかり休息をとることも大切。

そして、この時期は側に大人も子どもから風邪をもらって体調を崩しがちなので、一緒に予防対策をしましょう。

子どもたちは感染を繰り返していくうちに段々と免疫力をつけて強くなっていき、病気をもらう頻度も減ってきます。また、**集団生活でうつる感染症の中には、ワクチンで防げるものもあります。**接種すべきワクチンがきちんと終了しているか確認しましょう。



# 症状別、登園の判断の目安

厚生労働省「保育所における感染症対策ガイドライン」より

## 発熱



<登園を控えるのが望ましい場合>

- 24時間以内に、37.5℃以上の発熱がある場合、または解熱剤を使用している場合。
- 朝から37.5℃を超えた熱があることに加えて、元気がなく機嫌が悪い、食欲がなく朝食・水分が取れていないなど、全身状態が不良である場合。

## 下痢



<登園を控えるのが望ましい場合>

- 24時間以内に、複数回の水様便がある、食事や水分を摂るとその刺激で下痢をする、下痢と同時に体温がいつもより高いなどの症状がみられる場合。
- 朝に排尿がない、機嫌が悪く元気がない、顔色が悪くぐったりしているなどの症状がみられる場合。

## 嘔吐

<登園を控えるのが望ましい場合>

- 24時間以内に複数回の嘔吐がある、嘔吐と同時に体温がいつもより高いなどの症状がみられる場合。
- 食欲がなく、水分も欲しがらない、機嫌が悪く元気がない、顔色が悪くぐったりしているなどの症状がみられる場合。

## 咳



<登園を控えるのが望ましい場合>

- 夜間しばしば咳のために起きる、ゼイゼイ音、ヒューヒュー音や呼吸困難がある、呼吸が速い、少し動いただけで咳が出るなどの症状が出る場合。

## 発疹

<登園を控えるのが望ましい場合>

- 発熱とともに発疹がある。
  - 感染症による発疹が疑われ、医師より登園を控えるよう指示された場合。
  - 口内炎がひどく、食事や水分をとれない場合。
  - 発疹が顔面等にあり、患部を覆えない場合。
  - 浸出液が多く他児への感染の恐れがある場合。
  - かゆみが強く手で搔いてしまう場合。
- ★発疹が時間とともに増えるときは受診をお願いします。